

2026年度(後期)

作業療法学科 3 学年
教育計画

関東リハビリテーション専門学校

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT治療学(OT総合演習Ⅱ)

担当講師名 : 中村 正行

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 : なし
(出版社)参考書 :
(出版社)

教育目標 【到達目標】 :

作業療法ゴールの設定と治療プログラムについて、具体的な症例検討を通じて理解を深める。

【講義概要】

グループワークによるケーススタディや、具体的なプログラム立案と治療実施についてを症例検討を通して学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	身障領域の検査・評価法	身障領域における各種検査や評価法の実例を症例問題等を通して学ぶ。
2		
3	症例検討 (身障領域①)	脳血管障害の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
4		
5	症例検討 (身障領域②)	CVA以外の中枢神経障害の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
6		
7	症例検討 (身障領域③)	整形疾患や末梢神経損傷等の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
8		
9	症例検討 (身障領域④)	上記以外の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
10		
11	症例検討 (精神領域)	精神障害の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
12		
13	症例検討 (高齢者領域)	老年期障害の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
14		
15	症例検討 (発達領域)	発達障害の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
16		
17	ADL①	症例問題等を通してADL訓練の理解を深める。 ※グループワーク
18		
19	ADL②	
20		

2 1	福祉用具・義肢装具	症例問題等を通して福祉用具や義肢装具の理解を深める。 ※グループワーク
2 2		
2 3	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 講義、グループワークなど		

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT治療学(OT総合Ⅱ)

担当講師名 : OT教員(板倉)

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書
(出版社) : なし参考書
(出版社) : なし

教育目標 【到達目標】 : 総合臨床実習の症例対応をもとに、作業療法実施の総合的な理解を深める。

【講義概要】 学生側・教員側それぞれからの問題提起について演習を行う。

各設定場面（領域・病期・治療段階など）における適切な対応について検討する。

各領域の専任教員がオブザーバーとして参加し、より具体的な理解を促す。

回数	項 目	内 容
1	専門基礎演習	各領域における基礎演習
2	専門基礎演習	各領域における基礎演習
3	専門基礎演習	各領域における基礎演習
4	専門基礎演習	各領域における基礎演習
5	専門基礎演習	各領域における基礎演習
6	専門基礎演習	各領域における基礎演習
7	専門基礎演習	各領域における基礎演習
8	専門基礎演習	各領域における基礎演習
9	専門応用演習	総合演習
10	専門応用演習	総合演習
11	専門応用演習	総合演習
12	専門応用演習	総合演習
13	専門応用演習	総合演習
14	専門応用演習	総合演習
15	専門応用演習	総合演習
16	専門応用演習	総合演習
17	専門応用演習	総合演習
18	専門応用演習	総合演習
19	専門基礎演習	各領域における基礎演習
20	専門基礎演習	各領域における基礎演習

2 1	専門基礎演習	各領域における基礎演習
2 2	専門基礎演習	各領域における基礎演習
2 3	専門基礎演習	各領域における基礎演習
2 4	専門基礎演習	各領域における基礎演習
2 5	専門応用演習	総合演習
2 6	専門応用演習	総合演習
2 7	専門応用演習	総合演習
2 8	専門応用演習	総合演習
2 9	まとめ	総合確認
3 0	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 複数の専任教員（作業療法士/身体・精神・高齢期領域の実務経験）がオブザーバーを務める形式での演習。 各学生が具体的な疑問を持ち寄って活発に意見交換できるように期待する。		

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT治療学(OT総合Ⅲ)

担当講師名 : O T 教員(板倉)

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書
(出版社) : なし参考書
(出版社) : なし

教育目標 【到達目標】 : 作業療法の各領域と専門基礎分野の知識を結びつけて理解し、

EBMを踏まえた作業療法のあり方を学ぶ。

【講義概要】 精神医学と精神科作業療法、生理解剖運動学と身障領域作業療法、

神経内科学と中枢疾患作業療法など、基礎医学と専門作業療法の関わりは非常に深い。

エビデンスを重視した治療プログラムの立案に向けての総合的演習を行なう。

回数	項 目	内 容
1	専門作業療法	各種疾患の主症状とADL障害
2	専門作業療法	各種疾患の主症状とADL障害
3	生理学	ヒトの植物的機能と機能不全による症状の関連について学ぶ
4	生理学	ヒトの植物的機能と機能不全による症状の関連について学ぶ
5	総合演習	身障領域で対象となる疾患や外傷と作業療法治療プログラムについて
6	総合演習	身障領域で対象となる疾患や外傷と作業療法治療プログラムについて
7	総合演習	精神科領域で対象となる疾患と作業療法治療プログラムについて
8	総合演習	精神科領域で対象となる疾患と作業療法治療プログラムについて
9	解剖学	運動器の肉眼解剖を中心に、具体的な疾患や外傷との関連を学ぶ
10	解剖学	内臓・神経の解剖を中心に、具体的な疾患や外傷との関連を学ぶ
11	専門作業療法	精神科作業療法
12	専門作業療法	精神科作業療法
13	専門作業療法	運動器障害の作業療法
14	専門作業療法	運動器障害の作業療法
15	総合演習	身障領域で対象となる疾患や外傷と作業療法治療プログラムについて
16	総合演習	身障領域で対象となる疾患や外傷と作業療法治療プログラムについて
17	総合演習	精神科領域で対象となる疾患と作業療法治療プログラムについて
18	総合演習	精神科領域で対象となる疾患と作業療法治療プログラムについて
19	専門作業療法	運動器障害の作業療法
20	専門作業療法	運動器障害の作業療法

2 1	解剖学	運動器の肉眼解剖を中心に、具体的な疾患や外傷との関連を学ぶ
2 2	解剖学	内臓・神経の解剖を中心に、具体的な疾患や外傷との関連を学ぶ
2 3	専門作業療法	各種疾患の主症状とADL障害
2 4	専門作業療法	各種疾患の主症状とADL障害
2 5	専門作業療法	中枢神経疾患の作業療法とEBM
2 6	専門作業療法	中枢神経疾患の作業療法とEBM
2 7	生理学	ヒトの植物的機能と機能不全による症状の関連について学ぶ
2 8	生理学	ヒトの植物的機能と機能不全による症状の関連について学ぶ
2 9	まとめ	総合確認
3 0	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 複数の専任教員（作業療法士/身体・精神・高齢期領域の実務経験）および基礎医学（生理学・解剖学）の非常勤講師による講義と、専門作業療法演習 教科書は指定しないが、過去に使用した各種テキストを持参すること。		